VEHICULAR SEAT

Publication number: JP9169232 Publication date: 1997-06-30

Inventor: NAKANO NOBUYUKI

Applicant:

IKEDA BUSSAN CO

Classification:

- International: B60N2/42; B60R21/02; B60N2/42; B60R21/02; (IPC1-

7): B60N2/42

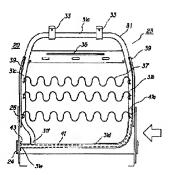
- European:

Application number: JP19950349263 19951220 Priority number(s): JP19950349263 19951220

Report a data error here

Abstract of JP9169232

PROBLEM TO BE SOLVED: To transmit impact load from the outer side of a seat back frame to the inner side end part and absorb this impact load in the case of impact load being applied to the side part of a seat back at the time of a side collision of a vehicle, thereby securing a survivable space for a seated person. SOLUTION: A seat back frame 31 is formed of a pipe frame, and one end of a reinforcing pipe 41 is inserted into a lower frame 31d of the seat back frame 31 from one end 31e on the inner side of the lower frame 31d. The reinforcing pipe 41 is formed into such length as to be extended to a side frame 31b on the outer side of the seat back frame 31, and the reinforcing pipe 41 is formed bent in nearly L-shape. A load transmission member 43 is rigidly fixed to the inner side other end of the reinforcing pipe 41. The load transmission member 43 is disposed in proximity to reclining mechanism 24 on the inner side.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報(A)

(II)特許出願公開番号 特開平9-169232

(43)公開日 平成9年(1997)6月30日

(51) Int.Cl.6	徽別記号	庁内整理番号	FΙ		技術表示箇所
B60N 2	42		B 6 0 N	2/42	

審査請求 未請求 請求項の数3 FD (全 5 頁)

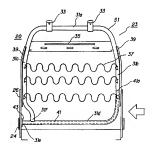
		新工 图·八	本編末 編示項の数3 FD (王 5 頁)
(21)出職番号	特顧平7-349263	(71)出願人	000210089 池田物商株式会社
(22) 出版日	平成7年(1995)12月20日		神奈川県綾瀬市小圃771番地
		(72) 発明者	中 野 伸 行 神奈川県綾瀬市小園771番地 池田物産株
		(74)代理人	式会社内 弁理士 秋山 條
		(74)代理人	开埋工 秋山 倭

(54) 【発明の名称】 車両用シート

(57)【要約】

【議題】 車両の側面衝突の際に、シートバックの側部 に衝撃荷重が与えられた場合に、シートバックフレーム のアウター側よりインナー側の端部に荷重を伝達し、こ の撃荷車を吸収し、着座者の生存し得る空間を確保す る。

【解決手段】 シートバックフレーム3 1 をパイプフレーム3 1 の下部フレーム3 1 の下部フレーム3 1 の下部フレーム3 1 の下部フレーム3 1 の下部フレーム3 1 は 1 の一端4 1 ェを下部フレーム3 1 は 0 内部に挿入する。 補強パイプ4 1 をシートバックフレーム3 1 のアウー側のサイドフレーム3 1 りまで延設する長さに形成する。この補強パイプ4 1 を鳴し字状に飛形形成する。 本補強パイプ4 1 のインナー側の地端4 1 りに育重伝達材4 3 を固善する。 青重伝達材4 3 を1 水子・一側のリクライニング機構2 4 に近後じて配設する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 シートバックフレームが下部フレームを 右し、該シートバックフレームのサイドフレームの下部 にリクライニング機構のアームが固着された車両用シートにおいて、前記シートバックフレームの下部フレーム のインナー側の一端より補強・ベイブが具入会は、該補強 パイアがシートバックフレームのアウター側のサイドラー レームまで延設され、前記補強パイアのインナー側の端 部に荷重伝達材が固着され、該荷重伝達材がインナー側 のリクライニング機構に近接して配設されていることを 特徴とする車両用シート、

【請求項2】 シートバックフレームが下部フレームを 有し、該シートバックフレームのサイドフレームの下部 にリクライニング機構のアームが固着された車両用シートにおいて、前記シートバックフレームがバイプフレームより形成され、シートバックフレームが下部フレーム内部 に挿入され、該補強バイブがデートバックフレームのア のインナー側の一端より精強パイブが下部フレームのア ウター側のサイドフレームまで延設されて略し子状に 放され、前ご構設パイプがシートバックフレームのア が多れ、該所重伝達材がインナー側の増和に有重伝達 材が固着され、該所重伝達材がインナー側のリクライニ ング機構に近差して配設されてことを特徴とする車 両用シート。

【請求項3】 シートバックフレームが下部フレームを 有し、該シートバックフレームのサイドフレームの下部 にリクライニング機構のアームが固著された車両用シートにおいて、前記シートバックフレームがパイプフレームより形成され、該パイプフレームを略四角形状に屈折 する前にシートバックフレームの下部フレームのインナー側の一端に相当する部分より補強パイプが挿入され、 該補強パイプは下部フレームとシートバックフレームの 該補強パイプは下部フレームとシートバックフレームの 該補強パイプが「ドンレームと共に屈折され、前記補強パイプが「ドンレームと共に屈折され、前記補強パイプが「「お記が「所認」を有に 強パイプが「第1と呼ばに対策したされ、前記補強パイプが オンナー側の場態に有頭伝送が「回答され、長衛電伝達 材がインナー側のリクライニング機構に近接して配設さ れていることを特徴とする車両用シート。

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は、シートバックフレ ムが下部フレームを有し、該シートバックフレームの サイドフレームの下部にリクライニング機構のアームが 固着された車両用シートに関する。

[0002]

【従来の技術】従来、車両のシートはシートクァション 及びシートバックを有し、シートバックのシートバック 及フレームがバイプフレームを鳴四角形状に開析して形成 されたシートフレームを開いているものが存在する。こ のバイプフレームを鴫四角形状に屈折して形成した場合 には、バイプフレームの下部に下部フレームが形成され

ることになる。

【0003】また、シートクッションの後部及びシート バックの下部間にシートバックを前後傾動可能に支持す るリクライニング機構が設けられ、このリクライニング 機構のアームがシートバックフレームのサイドフレーム の下部に固奏されている。

[0004]

【発明が解決しようとする課題】然し乍ら、このような 従来の車両のシート構造では、側面両を必能に、その衛 整荷座により事室内側に侵入するよう変形した下のに より、シートバック関部に衝撃荷重が与えられ、シート バックを支持するリクライニング機構が突曲点となり、 シートバックフレームが横方向に平行移動してしまう虞 れを有していた。

【0005】本売明の目的は、車両の側面衝突の際に、 シートバックの側部に衝撃荷重がよえられた場合に、シ トバックフレームのアウター側、94イント側の端部 に荷重を伝達し、この衝撃荷重を吸収し、着座者の生存 し得る空間を確保し、着座者の安全性を確実に向上させ ることができる車両用シートを幾供することを目的とす る。

[0006]

【課題を解決するための手段】本発明は上述せる課題に 鑑みてされたもので、本税明の譲渡項 に記載の本間 用シートは、シードバックフレームが干部フレー人を有 し、該シートバックフレームのサイドフレームの下部に リクライニン/機構のアームが固着された車両用シート において、前記シートバックフレームの下部 フレームの下の インナー側の一端より補強パイブが挿入され、該補強パ イブがシートバックフレームのアウター側のサイドフレ に大きなで延りされ、前記補機なパイプのインナー側のサイドフレ に有重伝達材が困寒され、該南重伝達材がインナー側の リクライニン/機構に近接して配設されていることを特 彼とする。

(0007] 本発明の請求項2に記載の車両用シートは、シートバックフレームが下部フレームを有し、該シートバックフレームのサイドン・レームの下部にリクライニング機構のアームが目着された車両用シートにおいて、順応シートバックフレームの下部フレームのイン・レー側の一端より補強パイアが下部フレームのアウラー側の一端より補強パイアがテートバックフレーへのアウラー側のサイドフレーよきで延迟されて略し、実化下級され、前記補強パイアがシートバックフレーのアウラー側の対イドフレールとすで延迟されて略し来状に形成され、前記補強パイアがシートバックフレー機構に進行が固着され、該角単伝達技術とフー側の場がに可能では、またの主などのようと手が設ます。

【0008】本発明の請求項3に記載の車両用シートは、シートバックフレームが下部フレームを有し、該シートバックフレームのサイドフレームの下部にリクライニング機構のアームが固着された車両用シートにおい

て、前記シートバックフレームがバイプフレームより形 成され、該バイプフレームを略四角形状に屈折する前に シートバックフレームの↑部フレームのインナー側の一 端に相当する部分より補強バイブが挿入され、該補強バ イブは下部フレームとシートバックフレームのアウター 側のサイドフレーム下部に延びる長さを有し、該補強バ イブがバイフフレームと共に屈折され、前記補強バイアが が略と平状に無形成され、前記補強バイフのインナー 側の端部に荷重伝達材が記着され、該荷重伝達材がイン ナー側のりクライニング機構に近接して配設されている ことを特徴とする。

【0009】木彫明の請求項」に記載の車両用シートに よれば、シートバックフレームのインナ 一側の一端より補強パイアが挿入され、誌補強パイアが シートバックフレームのアウター側のサイドフレームま で延設を礼、前海衛州がパイアのナー側の当然に高電 伝達好が阻害され、誌南張に遠柱がインナー側の30元に高電 伝達好が阻害され、誌南張に遠柱がインナー側の30元に高 つくり、シートバ っクフレームのアウター側より襲撃南重が与えられた場 大に、補強パイアがド部フレームの強度を補強し得ると 共に、補強パイアのインナー側の30部に固着される 大に、補強パイアのインナー側の30部に固着される 気に、補強パイアのインナー側の30部に固着される 気に、補強パイアのインナー側の30分に一 が伝達され、前車寄車が吸収され、着患者の生布し得る 空間を保険するととができる。

【0010】未売明の請求項2に記載の車両用シートによれば、シートバックフレームの下部プレームのにかの一端の増減パイ力下部フレー人の配かすれ、該域機がイブが多ートバックフレームのアウター側のサイドフレームまで延設されて等し半状に形成され、前記機能パイプのインナー側の別等の音重伝達柱が固着され、該倉重伝達柱が日本され、該倉重伝達柱が日本され、該倉重伝達柱が日本され、近近後して配設されているので、シートバックフレームのアウター側より音繁音度がサウター側のサイドフレームの強度と補強と引きと共に、補強パイプのインナー側の第2年に高着された「有主伝達材を介してインナー側のリクライニング機構に南重が伝達され、南蒙奇電が吸収され、素等の中では多な子間を確なることができる。

【0011】本発明の請求項3に記載の車専用シートに 成され、該シートバックフレームがパイプフレームより形 成され、該バイプフレームを略四角形状に展所する前に シートバックフレームの下部プレームのインナー側の一 端に相当する部分より補強パイプが挿入され、該補強パイプは下部プレームとアウター側のサイドフレーム下部 に延びる長さを有し、該補強パイプがパイプフレームと 共に屈折され、前記補強パイプがパイプフレームと れ、前記補強パイプのインナー側の端部に商量伝達材が 固着され、該荷重伝達材がインナー側のリクライニング 機構に近後して配設されているので、補強パイプの展析 に機能を使用しているので、相強パイプの展析 に対しているので、相強パイプの展析 に対しているので、相強パイプの展析 に対しているので、相強パイプの展析 一側より極撃商生が与えられた場合に、補煙バイブが下 部フレーム及びアウター側のサイドフレームの強度を補 強し得ると共に、補強バイブのインナー側の端部に固着 された産量伝達柱を介してインナー側のリクライニング 機構に南重が伝達され、衝撃南重が吸収され、着座者の 生存し得る空間を確保することができる。

[0012]

【発明の実験の形態】以下本発明に係わる車両用シート を闭面を参照して詳述する。図1万室四4には本発明に 係わる車両用シートの実態の形態が大々示されており、 車両用シート20は、図4に示す如く、シートフレーム 構成のみを示しているが運転磨または助手席に適用する ことができる。

【0013】車床フロア10の中央には、前後方向に延 びるフロアトンネル11が形成され、このフロアトンネ ル11の左右に運転施及び助手席が設けられている。車 両用シート20は、車体フロア10に前後スライド機構 12を介して前段を勢可能に取付けられたシートッッション21と、このシートクッション21の後端都にリク ライニング機構24を介して前後援動可能に支持された シートバック223を増えている

【0014】図2に示す如く、リクライニング機構24 はシートクッション21側に取付けられるペース25 と、該ベース25に対して回動可能に根支ビン28によ り框支され、シートバック23側に取付けられるアーム 26とから形成されている。

【0015】図1に示す如く、シートバック23のシートバックフレーム31はパイプフレー人の形成され、パイプフレー人を8回角形状に屈折してシートバックフレーム31が形成されている。シートバックフレーム31は上部フレーム31。、アウター限のサイドフレーム31b、インナー側のサイドフレーム31c及び下部フレーム31c及び下部フレーム31c及び下部フレーム31c及び下部フレーム31c及び下部フレーム31c及び下部フレーム31c及び下部フレーム31c及び下部フレーム31c及び下部フレーム31c及び下部フレーム31c及び下部フレーム31c及び下部フレーム31c及び下部フレーム31c及び下部フレーム31c及び下部フレーム31c及び下部フレーム31c及び下部フレーム31c及び下部フレーム31c及び下部フレーム51ckを

【00161尚、シートバックフレーム31はパイプフレームより形成されるものに限定されるものではなく、 下部プレーム31はのみをパイプフレームより形成する ものであってもよく、または1枚のパネルを展析させて 断面コ学化、ロ学机に形成するものであってもよい。ま 左特号 34はステーホルグブラット、35は衝散パネル、37はS学状のシートスアリング、39はサイドフレーム31b、31cに大々固着されたサイドパネルで ある。

【0017】前記シートバックフレーム31の下部フレ ーム31dのインナー側の一端31eより前弦パイプ 1の一端41aが呼入され、該補強パイプ41の一端4 1aがシートバックフレーム31のアウター側のサイド フレーム31bの中間まで延設されて略し字状に形成されている。

【0018】前記補強パイプ41のインナー側の他端4 1bに板状の荷重伝達材43が固着され、この荷重伝達 材43がインナー側のリクライニング機構24のベース 24及びアーム26に近接して配設されている。尚、荷 電伝達材43がインナー側のリクライニング機構24に 当接するものであってもよい。

【0019】図3(a) に想像線で示す如く、前記シーバックフレーム31がパイフレームを略四角形状に 屈折して形成される前に、シートバックフレーム31の 下部フレーム31 dのインナー側の一溜31 cに相当する お沿より、下部フレーム31 dとアウテー側のサイド フレーム31 bの下部に近び8月さを有する補強パイプ 41の一端41 aが挿入され、補強パイプ41がツー バックフレーム31 がイブフレームと共にペンダー加 工等により屈折され、前記補強パイプ41が略し字状に 起折形破された。

【0020】前記シードバックフレーム31のインナー 側のサイドフレーム31cの下端31fは下部フレーム 31dのインナー側の一端31cに近接する位置に浴着 されている。尚、前記標館パイプ41のインナー側の他 第41bに予め南瓜伝が47を指しておくことが好ましいが、後付付であってもよい。

[0021]

【発明の効果】以上が水形明に係わる車両用シートの一 実施例の構成であるが、本売明の前ま項1に記載の車両 用シートによれば、シートバックフレームの下部フレー ムのインナー側の一端より補強パイアが挿入され、該補 強パイアがシートバックフレームのアウター側のサイド フレームまで延設され、前記補強パイアのインナー側の 電部に両重伝達材が固善され、該荷重伝達材がインナー 側のリクライェング機構に近接して配設されいるの で、シートバックフレームのアウター側より衝撃前度が 与えられた場合に、補強パイアが下部フレームの強度を 等された場合に、補強パイアが下部フレームの強度を 着された荷重伝達材を介してインナー側のリクライニン グ機構に南重が伝達され、衝撃荷重が吸収され、者座者 の生存し得る空間を確保することができる。

【00221本発明の請求項2に記載の車両用シートに よれば、シートバックフレームの下部フレームのインナー側の一端より補強がイナが下部フレームが底に挿入され、該補強パイブがシートバックフレームのアウター側 のサイドフレームまで延設されて略上字状に形成され、 前記制造パイプのインナー側の端部に荷重に設材が固蓄され、該荷重伝達材が乙ナー側の別クライニング機構 され、該荷重伝達材がインサー側のリクライニング機構 を放けれているので、シートバックアレーム のアウター側より衝撃荷重が与えられた場合に、補強パイアが下部フレーム及びアウター側のサイドフレームのアウター側の第後度を補後にあるとまた、補端パイアのイナー側の場部に固着された荷重伝達材を介してインナー側のリクライニンで機構に荷重が伝送され、衝撃荷重が吸収され、

【0023】本発明の請求項3に記載の車両用シートに

よれば シートバックフレームがパイプフレームより形 成され、該パイプフレームを略四角形状に屈折する前に シートバックフレームの下部フレームのインナー側の一 端に相当する部分より補強パイプが挿入され 該補強パ イブは下部フレームとアウター側のサイドフレーム下部 に延びる長さを有し、該補強パイプがパイプフレームと 共に屈折され、前記補強パイプが略し字状に屈折形成さ れ、前記補強パイプのインナー側の端部に荷重伝達材が 固着され、該荷重伝達材がインナー側のリクライニング 機構に近接して配設されているので、補強パイプの屋折 作業を簡易迅速に行え、シートバックフレームのアウタ 側より衝撃荷重が与えられた場合に、補強パイプが下 部フレーム及びアウター側のサイドフレームの強度を補 強し得ると共に、補強パイプのインナー側の端部に固着 された荷重伝達材を介してインナー側のリクライニング 機構に荷重が伝達され、衝撃荷重が吸収され、着座者の 生存し得る空間を確保することができる。

【0024】本発明によれば、車両の側面衝突の際に、 シートバックの側部に商業南重が与えられた場合に、シ トバックフレームのアウター側よりインナー側の常部 に荷重を伝達し、この衝撃南重を吸収し、着産者の生存 し得る空間を確保し、着産者の安全性を確実に向上させ ることができる車両用シートを得ることができる。 【図面の簡単を説明】

【図1】本発明に係る車両用シートのシートバックのフ レーム構成の正面図。

【図2】本発明に係る車両用シートのシートバックのフレーム構成の側面図。

【図3】本発明に係る車両用シートの補強パイプを示す もので、(a)は正面図。(b)は一部斯面図。

【図4】本発明に係る車両用シートのフレーム構成の正 面図.

【符号の説明】

- 10 車体フロア
- 11 フロアトンネル
- 12 前後スライド機構 20 車両用シート
- 21 シートクッション
- 23 シートバック
- 24 リクライニング機構
- 25 ベース
- 26 アーム 28 枢支ピン
- 31 シートバックフレーム
- 31a 上部フレーム
- 31b アウター側のサイドフレーム
- 31c インナー側のサイドフレーム
- 31d 下部フレーム
- 39 サイドパネル
- 41 補強パイプ

43 荷重伝達材

